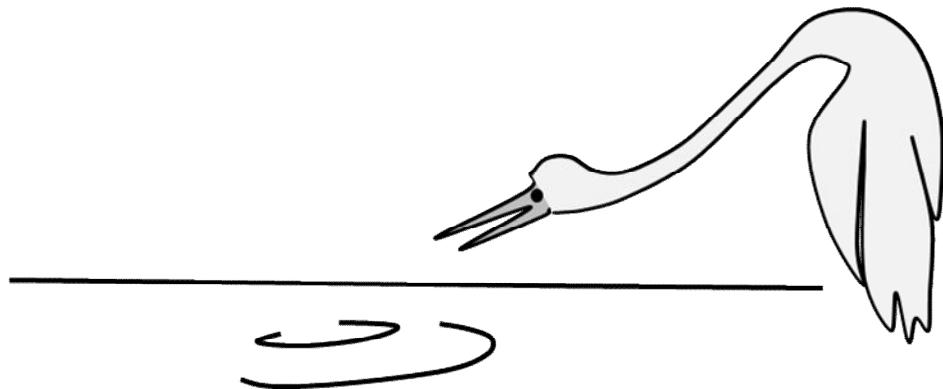


とくていぎのう  
特定技能

ぎょぎょうぎのうそくていしけん ぎょぎょう がくしゅうようてきすと  
漁業技能測定試験（漁業）学習用テキスト

あんせんかんけい  
(安全関係)



いっぽんしゃだんほうじんだいにほんすいさんかい  
一般社団法人大日本水産会

しょはん ねん がつ  
(初版2019年12月)

もくじ  
目 次

あんぜん ふくそう 1. 安全な服装	1
あんぜん じょうせんかつどう 2. 安全な乗船活動	2
せんないこうどう 3. 船内行動	3
あんぜんひょうしき 4. 安全標識	3
じこぼうしたいさく 5. 事故防止対策	5
かいちゅうてんらく ききたいおう 6. 海中転落の危機対応	6

## 1. 安全な服装

### (1) 安全保護具

安全対策として、“保護具の着用”がある。保護具の着用は安全を保つための手段である。

主な保護具は、次の通り。

- ・頭： 安全帽（ヘルメット）
- ・目： 眼鏡、ゴーグル
- ・耳：（耳せん、マフ）
- ・顔： 保護面
- ・手： ゴム手袋
- ・足： 安全靴、長靴
- ・皮膚： 作業着（かつぱ）
- ・身体： 高所用安全ベルト

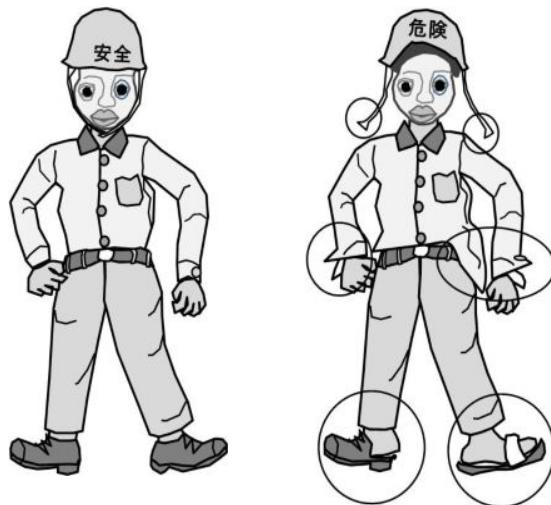


図1 服装（左）と危険な服装（右）

### (2) 作業着

身体に合った長袖の作業着を着用する。操業中および甲板では、上着のすそはズボンに入れ、服のそでのボタンをしっかりと留め、機器による巻き込みや、引っかかりを防止する。操業中及び甲板では、スリッパやサンダルなどの足先の露出が多い履物は、滑りやすく落下物に対して足を保護できないので使用しない。（図1）

### (3) 安全帽（ヘルメット）等の保護具

操業中及び作業中は、船内のはりや機械類に頭をぶつけたり、落下物から頭を保護するために安全帽を着用する。安全帽はまっすぐにかぶり、あごひもをしっかりと結ばないと安全性は保てない。

船内作業に応じて、手袋、安全靴及び長靴を使用する。マスト等の高所作業や船外より体を乗り出して作業をする場合は安全ベルト・命綱を装着する。

#### (4) 作業用救命衣（救命胴衣）

そうぎょうようきゅうめい　きゅうめいどうい  
操業中及び甲板（デッキ）では、  
さぎょうようきゅうめい　きゅうめいどうい  
作業用救命衣あるいは救命胴着  
そうちやく　そうちやく　さい　ちやっく  
を装着する。装着の際、チャックや  
ひも　かくじつ　し　きゅうめいどうい　はず  
紐は確実に締めて救命胴衣が外れ  
ないようする。（図2）

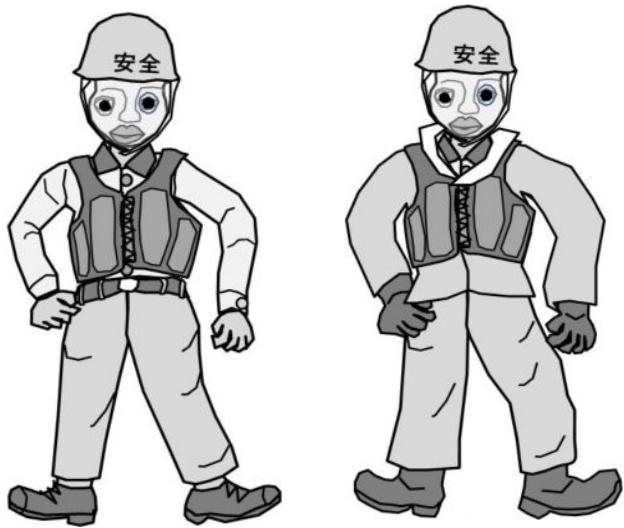


図2 作業用救命衣の装着  
さぎょうぎ　うえ　ひだり　かつぱ　うえ　みぎ  
作業着の上（左）と合羽の上（右）

#### (5) 合羽・長靴

そうぎょうおよ　あくてんこうじ　さぎょう　ばあい　かつぱ　ながぐつ　そうちやく　ながぐつ　くつぞこ　すべ  
操業及び悪天候時の作業の場合は、合羽と長靴を装着する。長靴は、靴底が滑り  
にくい材質や滑り止め構造があるものを着用する。（図2）

## 2. 安全な乗船活動

- ・積んでいる漁具や道具は決められた場所に確実に収納し、船の動搖で崩れたり、  
さんざい　こてい　ろ一ぶるい　あみいと　あみじるい　せいり　せいとん  
散在しないように固定する。ロープ類、網糸、網地類も整理・整頓しておく。
- ・ハッチのふたは確実に閉め、開きかけのふたの上には乗らない。  
はつち　かくじつ　し　ひら　うえ　の
- ・長靴、合羽、バケツ等も整理・整頓して、必要に応じて使えるようにする。  
ながぐつ　かつぱ　ばけつなど　せいり　せいとん　ひつよう　おう　つか  
せいかつ　さぎょうば　ひと　あんぜん　こうどう　と　せいり　せいとん　きのう
- ・清潔な作業場では、人は安全な行動を取ることができるし、整理・整頓が機能する。  
せんない　そうぎょう　こうはん　つね　せいかつ　せいそう　こころ  
そのために船内や操業する甲板は常に清潔に清掃することを心がける。

### せんないこうどう 3. 船内行動

- せんない じこぼうし あんぜんひょうしき ひょうじなど ひごろ かくにん げんしゅ
- ・船内の事故防止の安全標識、表示等を日頃から確認しておき、厳守する。
  - そうぎょう さぎょう のぞ にちぼつご こうはん で かいちゅうてんらく きけん ふ
  - ・操業や作業を除き、日没後に甲板に出ると海中転落の危険が増えるので、むやみひとりでさやかんこうはんでときかならほかのりくみいんつた  
に一人で出ることは避ける。夜間、甲板に出る時には必ず他の乗組員に伝える。
  - かいちゅうてんらく ふせ げんがわぶるわーく こし のぼ さ
  - ・海中転落を防ぐために舷側（ブルワーク）に腰かけたり、登ることは避ける。

### あんぜんひょうしき 4. 安全標識

じこぼうし あんぜんひょうしき さまざま いっぱいとき ひょうしき きんしひょうしき しじ  
事故防止するための安全標識は様々である。一般的に標識には、禁止標識、指示  
ひょうしき ちゅういひょうしき いっぱいひょうしき あんないひょうしきなど ばいぶなど ちょくせつひょうじ  
標識、注意標識、一般標識、案内標識等がある。また、パイプ等へ直接表示さ  
れるものもある。(図3、4)

きんしひょうしき たい きんし かき げんきん きんえん など  
禁止標識：立ち入り禁止、火気厳禁、禁煙、さわるな等

しじひょうしき ほごぼうちやくよう みみせんちやくよう あんぜんかくにんなど  
指示標識：保護帽着用、耳栓着用、安全確認等

ちゅういひょうしき ゆうがいぶつちゅうい すじょううちゅうい あしもとちゅういなど  
注意標識：有害物注意、頭上注意、足元注意等

ちょくせつひょうじ はいかん ひょうじ いろ まみず あぶらるい かいすい とお  
直接表示：配管に表示されている色により、真水、油類、海水を通しているこ  
きいろ くろ ろーぶ とらろーぶ よ  
とがわかる。また、黄色と黒にぬられたロープは、トラロープと呼ば  
きけん ばしょ は  
れ危険な場所に張られる。



図3 禁止標識、指示標識及び注意標識の例



図4 直接表示の例

## じこぼうしたいさく 5. 事故防止対策

ぎょぎょう ろうどうさぎょう あんぜん かくほ じこ ぼうし つね かくじ こうどう  
漁業の労働作業における安全を確保し、事故を防止するためには、常に各自の行動  
じこ そうてい あんぜんかくにん じゅくれんしや きけん さぎょう ひとり  
について事故を想定して安全確認をおこたらず、また、熟練者でも危険な作業は一人  
おこな とく ひつよう そうてい おも じこ ぎょろう  
で行わないように取り組むことが必要である。想定される主な事故としては、漁労  
さぎょうちゅう さどうちゅう ぎょぐ せんぐなど ふしょう てんとう じこ おお でりっく くれーん  
作業中の作動中の漁具、船具等による負傷や転倒事故が多く、デリックやクレーン  
そさちゅう らっかじこ ぎょろう きき とく ういんちるい まこじこ だいじこ  
操作中の落下事故や漁労機器、特にワインチ類による巻き込み事故は大事故につなが  
さぎょうちゅう きかい さい じゅうぶんちゅうい じゅうよう  
りやすい。そのため、作動中の機械を扱う際には十分注意することが重要である。  
ぎょかくぶつ けが しょしんしや おお つぎ あんぜんかくにん とく さぎょう  
また、漁獲物による怪我は、初心者に多い。次のような安全確認に取り組み、作業に  
あたる。

- さぎょう おこな とき しゅうい じょうきょう じゅうぶん き くぱり れんらく と あ すす  
・作業を行う時は、周囲の状況に充分気を配り、連絡を取り合いながら進める。
- こいる ろーぶ わ なか あし からだ い  
・コイルされたロープの輪の中に足、体を入れない。
- ふね じぶん ほじ はんい おも こ じゅうりょうぶつ うんばん ふくすう じんいん  
・船のゆれに自分を保持できる範囲の重さを超える重量物の運搬は複数の人員で  
おこな 行う。
- おも も ばあい ながぐつなど すべ くつ は  
・重いものを持つ場合は長靴等の滑りにくい靴を履く。
- ぎょかくぶつ ぎょぐ ひきあ ふね かいこうぶふきん さぎょう かいちゅうてんらく  
・漁獲物や漁具を引揚げるためにもうけられた船の開口部付近の作業では、海中転落  
きけん ちゅうい かいこうぶ せなか む さぎょう おこな  
の危険があることを注意する。開口部に背中を向けて作業は行わない。
- さどうちゅう ろーぶ わーぶ わい やー ふようい ちか はだん ばあい  
・作動中のロープやワープ（ワイヤー）には、不用意に近づかない。破断した場合の  
ろーぶるい はんいない さ さぎょう あ  
ロープ類の動く範囲内を避けて作業に当たる。
- つ あ あみぎょぐ さどうちゅう でりっく くれーんなど ました はい  
・吊り上げられた網漁具、作動中のデリック、クレーン等の真下に入らない。
- ぎょろう き きなど そうさ じゅくれんしや まか そうさ まか ばあい つね ていし  
・漁労機器等の操作は、熟練者に任せる。操作を任される場合は、常に停止できる  
じょうたい たも  
状態を保つ。
- ぎょかくぶつ あつか ゆうがいぎょかいるい あつか じゅうぶんちゅうい し ぎょかいるい  
・漁獲物の扱いでは、有害魚介類の扱いに充分注意する。知らない魚介類について  
しゅうい のりくみいん き あつか  
ては周囲の乗組員に聞いてから扱う。
- ぎょかくぶつしょり はものるい あつか じぶん ほか ひと きず ちゅうい  
・漁獲物処理のときは、刃物類の扱いは、自分や他の人を傷つけないように注意する。

ぎよかくぶつしょりご こうはん さかな ち あぶら など すべ  
・漁獲物処理後の甲板は魚の血、油、ぬめり等で滑りやすいので、すぐに洗い落す。

こうはん さかな す か つ ば 一 つ き つ  
・甲板にこぼれた魚がスカッパーに詰まらないように気を付ける。

## かいちゅうてんらく き きたいおう 6. 海中転落の危機対応

かいちゅうてんらく じ こ そうぎょうちゅう かぎ ぎよせん じ こ なか いちばん お ちゅうい  
海中転落事故は操業中に限らず、漁船事故の中でも一番起こりやすいので注意  
ひつよう きほんてき にんげん からだ みず う ちやくいおよ かっぱ そうちやく じょうたい  
が必要である。基本的に人間の体は水に浮き、着衣及び合羽を装着した状態では  
う じりき たす むり およ いふく み つ  
さらに浮きやすくなっている。自力で助かると無理に泳いだりせず、衣服を身に着  
からだ あおむ こきゅう かくほ う じょうたい い じ きゅうじよ ま  
けたまま、体を仰向けにして呼吸を確保し、浮いた状態を維持し、救助を待つこ  
いのち たす かのうせい たか ひと うみ み そくざ しゅうい  
とで、命の助かる可能性が高くなる。また、人が海に落ちたのを見たら即座に周囲に  
おおごえ し ちか う わ らい ふ ぶい うみ な い じゅうよう  
大声で知らせ、近くにある浮き輪(ライフブイ)などを海に投げ入れることが重要で  
ある。

すいちゅう お ばあい じぶんじしん ちから たす たす  
・水中に落ちてしまった場合、自分自身の力で助かるともがくのではなく、助け  
く う じょうたい ま  
が来るまで浮いた状態で待つ。

すいちゅう しず あし うご ば たあし くろーる みず うえ てあし だ い  
・水中で静かに足を動かす。バタ足、クロールといった水の上に手足を出し入れする動作はせず、空中に身体を出さない。

そうぎょうちゅう かっぱ ながぐつ そうちやく らくすい ながぐつ ぬ さか  
・操業中は、合羽と長靴を装着しているので、落水したら長靴を脱いで、逆さま  
ないぶ くうき い うき つか す  
にして内部に空気を入れ、浮として使う。(図5)



図5 長靴を浮にして救助を待つ

- ビニール袋、ペットボトルなどが近くにあれば、浮くもの（救命用具）として利用する。（ペットボトルやビニール袋に空気を入れ、胸にかかえてあおむけになると浮く。）
- 救助ロープを投げられた場合、ロープを体（腰）にまわして、もやい結び（Bowline knot）で輪を作り、輪がしまらないようにして、ひきあげてもらう。
- 救助浮輪を投げられた場合、浮輪をかぶり、腰の位置に止め、曳き綱を握り曳きあげてもらう。